

1. Course Description

医療技術の進歩によって疾患の治癒率が上昇した一方で、様々な障害や社会的問題を抱える人々は年々増加しており、リハビリテーション医学を学ぶ意義は高まっています。

本授業では、リハビリテーションの現場で見られる疾患・症候について知識を身につけます。そのため、定期試験の他、授業で習った内容を効果的に定着させるため、毎授業冒頭に前回授業内容に関する演習問題を行います。

また、国家試験には当該分野からも多く出題されるので、国家試験も見据えて授業を行います。

毎回、先週学んだ範囲の小テストを行い、当該範囲の理解を深め、問題の解説時にはグループディスカッションも行います。

この授業ではDP1・2に関する知識を修得します。

本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は医療機関(整形外科・リハビリテーション科)で従事しており、授業では、臨床例、課題などを題材とした講義、実習を行います。

2. Course Objectives

リハビリテーション医学特有の考え方が理解し、リハビリテーション医学で対象となる各疾患および障害、各種評価法および治療法を説明できる。

また、国家試験を見据え、当該範囲の理解を深めます。

3. Grading Policy

小テストを20%、期末筆記試験を80%として評価を行い、全体の60%以上を取得した者を合格とします。

2/3以上の出席がない学生の評価は行いません。

全体に対するフィードバックとして、第15回授業でまとめと振り返りを行います。

4. Textbook and Reference

Textbook

全国柔道整復学校協会 監修 リハビリテーション医 改訂第4版 南江堂

5. Requirements(Assignments)

予習としてLMSで指定された課題についてまとめてから授業に臨んで下さい。

教科書の指定の部を読み(授業内容の項目およびLMS)、全体の概要をとらえておき、難読と思われる用語については事前に読めるよう調べて下さい。

復習としてLMSで指定された項目についてまとめ、さらに確認問題を解いて下さい。

おおよそ予習に1時間、課題と問題解答の復習に2時間を見込んでいます。

6. Note

① 座席は教員が指定します。

② 7.授業内容に沿って授業を進めますが、状況により調整を行う場合があります。

7. Schedule

- [1] オリエンテーション
- [2] リハビリテーションの概念
- [3] リハビリテーション医学の評価と診断
- [4] 理学療法、作業療法
- [5] 補装具(前半)
- [6] 補装具(後半)、言語療法
- [7] 脳卒中(前半)
- [8] 脳卒中(後半)
- [9] 脊髄損傷
- [10] 小児疾患、切断
- [11] 末梢神経損傷、関節リウマチ
- [12] 心疾患、呼吸器疾患
- [13] 整形外科疾患、老人のリハビリテーション
- [14] リハビリテーションと福祉
- [15] 授業のまとめ